

富士山と自然観察記録(俳句集-Ⅱ)

Mt. Fuji and Nature Observation,

HAIKU Collection by 2015-2017

岩崎行伸*

東海大学海洋学部をリタイア後、呆け防止策と自己満足のために趣味活動として、四季折々の富士山と自然界の観察記録によるデジカメ映像記録を個展として発表しようと、各所の展示会場や博物館等を探した。ところが、各所で10点(A4版)展示するのに参加場所代金として25~30万円用意するという。

年金生活者&フリーターにとっては、大金であるため各所を探したところ Yahoo blog が写真付き無料(会員月3000円)で投稿できるということであり、2014年から、My blog 創設し確保した。時折、四季彩々の景観や生きものたち(野鳥(水鳥)・蝶・蜻蛉・淡水魚たちの観察記録をこれまで俳句に詠み発表したものを、この機会に纏めたものである。

俳句集-Ⅱ(2015-秋)

- 第1513号(8/24):日暮れどき、コオロギの鳴き、秋を呼ぶ。
- 第1516号(8/29):夜半どき、クツワムシ鳴き、秋を呼ぶ。
- 第1517号(8/29):クツワムシ、ガチャガチャ鳴き、秋を呼ぶ。
- 第1523号(9/4):何時見ても、富士の美嶺は、世界財。
- 第1530号(9/12):何時の間に、せど裏山は、秋の彩。
- 第1531号(9/13):虫の鳴き、せど裏山に、響く秋。
- 第1533号(9/16):秋の虫、せど裏山で、大合唱。
- 第1539号(9/23):何時の間に、せど裏山は、秋の空。
- 第1902号(9/9):せど裏に、残暑去りして、秋の彩。
- 第1906号(9/14):早朝から、虫の合唱、秋の詩。
- 第1890号(9/30):要暮れ時、せど裏山に、虫の鳴き。
- 第1954号(11/6):背戸裏の、富士の高峰に初冠雪。
- 第1973号(12/7):せど裏の、観る富士山に、冬化粧。
- 第2226号(9/13):何時の間に、蟬から虫へ、移る秋。
- 第2229号(9/23):せど裏に、中秋の夜、虫時雨。
- 第2241号(10/5):移る秋、せど裏山の、四季の彩。
- 第2254号(10/20):何時までも、夏日が残る、秋の昼。
- 第2259号(10/26):富士山に初冠雪を、見る秋日。

第2272号(11/10):せど裏に、白い帽子的、富士の山。

第2278号(11/17):落ち葉舞う、せど裏山の、秋の詩。

第2294号(12/6):秋深し、富士の高峰に、雪帽子。

2016年(冬)

第2296号(1/1):せど裏に、2016, 初の富士。

第2299号(1/4):寒空に、一羽のトビが、乱舞中。

第2300号(1/6):年明けて、富士の積雪、今ひとつ。

第2297号(1/9):富士の山、七草過ぎて、雪少々。

第2299号(1/12,カルガモの、ひとり泳ぎが、楽しそう。

第2230号(1/12:冬将軍、駿河の国へ、襲来中。

第2300号(1/19):駿河県、暖冬過ぎて、初雪や。

第2305号(1/24):雪将軍、駿河の国に、仮の宿。

第2308号(2/5):せど裏に、紅梅開花、春の詩。

第2310号(2/9):せど裏に、白梅開花、春を告げ。

第2311号(2/13):春節の、三寒四温、一夜ずつ。

第2314号(2/14):せど山に、春一番の、南風。

第2315号(2/28):ヤマザクラ、せど裏で、今見頃。

2017年(春)

第2318号(3/5):春霞、桜の開花、何時の日か。

第2320号(3/8):春うらら、鶯の鳴き、初の詩。

第2327号(3/10):鶯が、遊木の森で、春を鳴く。

第2343号(3/15):せど裏の、白梅の花が、風に散る。

第2344号(3/16):せど裏に、ケンケンと、雉が鳴く。

第2345号(3:20):季節花、ハクモクレンが、今見頃。

第2346号(3/21):せど裏で、鶯の鳴き、初を聴く。

第2348号(3/24):せど裏の、吉野桜が、開花した。

第2350号(3/26):里山で、河津桜が、今見頃。

第2359号(4/9):せど裏の、吉野桜が、満開だ。

第2364号(4/13):せど裏の、染井吉野が、桜散る。

第2371号(4/20):馬走せど、木蓮の花、今見頃。

第2385号(5/12):せど裏に、木々の枝葉に、初夏輝り。

第2401号(6/6):梅雨入りで、富士の高峰は、雲の中。

第2405号(6/10):梅雨の間に、雲の中から、頭出る。

第2423号(7/3):せど裏で、クマゼミの鳴き、初の唱。

2017年(夏)

- 第2477号(7/6):せど裏に、台風一過、夏の彩。
第2484号(7/14):蝉の鳴き、せど裏の梅雨、明け近し。
第2486号(7/16):朝早く、クマゼミの鳴き、シャシヤと。
第2487号(7/18):梅雨明けて、猛暑の季節、水遊び。
第2488号(7/19):梅雨明けて、せどの裏山、蝉の唱。
第2489号(7/20):明けの朝、シャンシャンと、蝉時雨。
第2500号(7/29):せどの畑、花から花へ、アゲハ舞う。
第2504号(8/5):台風が、猛暑を連れて、本土入り。
第2505号(8/6):今季また、豪雨暴風、引き連れて。
第2506号(8/7):台5号、暑々の気団を、横目見て。
第2508号(8/11):ドンドンと、せど裏山に、花火咲く。
第2509号(8/13):朝早く、猛暑警報、蝉時雨。
第2511号(8/15):小雨パラ、蝉時雨止む、せどの山。
第2513号(8/16):夜になり、蝉時雨止み、虫の鳴き。
第2515号(8/19):蝉時雨、猛暑戻って、ジュージューと。
第2520号(8/26):日が暮れて、蝉時雨から、虫時雨。
第2522号(8/28):朝早く、チュンチュンと、スズメ鳴く。

2017年(秋)

- 第2525号(9/1):日没後、虫の鳴き声、秋唄う。
第2544号(9/22):猛暑過ぎ、せどのお山、秋の彩。
第2555号(10/5):すっかりと、秋の装い、衣から。
第2573号(10/26):中秋の、せど裏の富士、初冠雪。
第2573号(10/26):久々に、晴天の空、青く澄む。
第2578号(11/1):中秋の、檜の葉々に、彩づくし。
第2585号(11/9):せど裏の、富士のお山に、雪は消え。
第2587号(11/11):晩秋の、富士の高峰に、冬支度。
第2593号(11/19):四季の詩、秋陽短かし、枯れ葉舞う。
第2602号(11/30):せど裏の、落ち葉拾いに、秋の暮れ。
第2602号(11/30):日暮れ時、落ち葉拾いに、秋の詩。
第2617号(12/16):秋深し、日暮れ時には、枯れ葉舞う。

特別号外:Field Watching

背戸裏山の四季彩々・自然観察記録



参考資料

- 1) 自然観察ハンドブック(2009):財団法人・日本自然保護協会
- 2) 野鳥小図鑑(1987):東海大学出版会
- 3) 日本の淡水魚(2000):図書印刷株式会社、学習研究社
- 4) 里山図鑑(2009):(株)ポプラ社・おくやままさし著
- 5) 樹木図鑑(2005):(株)日本文芸社、鈴木廉夫著
- 6) 特別号外:Field Watching (Ⅲ)富士山と自然観察記録、岩崎行伸著
- 7) 特別号外:Field Watching (Ⅳ)生きものたちと自然観察記録、岩崎行伸著
- 8) 富士山と自然観察記録(俳句集-I) 2021:海鳴54号、岩崎行伸著

*いわさきゆきのぶ NPO法人自然観察塾(塾長)、水棲&環境研究会